

(様式第 9)

産医大収第 1 1 0 5 4 1 号
平成 2 3 年 1 0 月 4 日

九州厚生局長 殿

学校法人 産業医科大学
開設者名 理事長 海野 孝

産業医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 2 2 年度の業務
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	1 8 3 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	324人	4人	325. 0人	看 護 補 助 者	66人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	8人	0人	8. 0人	理 学 療 法 士	11人	臨 床 検 査 技 師	44
薬 剤 師	30人	0人	30. 0人	作 業 療 法 士	4人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	2人	0人	2. 0人	視 能 訓 練 士	3人	其 他	0人
助 産 師	22人	0人	22. 0人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	616人	11人	623. 7人	臨 床 工 学 技 士	8人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	8人
准 看 護 師	0人	0人	0. 人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	2人
歯 科 衛 生 士	1人	0人	1. 人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	73人
管 理 栄 養 士	3人	1人	3. 8人	診 療 放 射 線 技 師	30人	そ の 他 の 職 員	21人

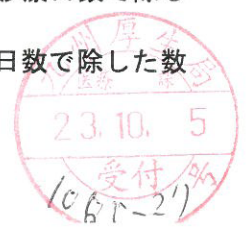
- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	536.1人	3.1人	539.2人
1日当たり平均外来患者数	1,548.3人	58.3人	1,606.6人
1日当たり平均調剤数	1,100.3剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
・インプラント義歯	0人
・鏡視下肩峰下腔除圧術	0人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	1人
・超音波骨折治療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	PCRを用いたニューモシスチス肺炎の診断(第1内科)	取扱患者数	24人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>PCR法を用い、患者の誘発喀痰検体から抽出した微量のDNAを増幅し、Pneumocystis jiroveci DNAの検出に基づく診断を行う技術である。</p> <p>特に膠原病・リウマチの治療に伴う日和見感染症としてのニューモシスチス肺炎を早期に診断して治療開始することにより、予後の著しい向上を得ている。</p>			
医療技術名	持続皮下血糖測定システム(CGMS)を用いた血糖測定(第1内科)	取扱患者数	36人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>糖尿病患者腹部に刺したセンサーが間質液から5分毎に糖濃度の平均値によって血糖値を算出する技術である。1つのセンサーで最大3日間連続測定が可能で、機器をはずしてPCにデータを送ると、蓄積した測定データからその日の血糖推移のグラフが作成できる。これによりインスリン療法、経口剤を用いた血糖コントロールは言うまでもなく血糖推移のグラフを見せることで患者教育においても著しい効果を発揮している。</p>			
医療技術名	自己免疫疾患に対する免疫吸着療法(第1内科)	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>抗DNA抗体をはじめとする自己抗体高値の膠原病(SLE、MCTD)等に関して自己抗体に特異的な吸着カラムを用いた体外循環により自己抗体の除去を行なう。</p> <p>既に産生された自己抗体の物理的除去は、免疫抑制剤との併用により高い効果をもたらしている。</p>			
医療技術名	敗血症性ショックに対するポリキシン吸着療法(第1内科)	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>敗血症性ショック(エンドトキシンショック)の患者に対して、エンドトキシンに特異的な吸着カラムを用いた体外循環により、エンドトキシンの除去を行い、敗血症性ショック、呼吸器障害を改善させる。</p>			
医療技術名	既存治療抵抗性SLEに対する抗CD20抗体療法	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>既存治療抵抗性全身性エリテマトーデスに対して抗CD20抗体リツキシマブによるB細胞除去を行い、非常に高い疾患活動性を抑制し臓器障害を回避しえた。</p>			
医療技術名	リンパ球表面P糖蛋白発現解析による自己免疫疾患のオーダーメイド治療(第1内科)	取扱患者数	14人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>自己免疫疾患の疾患活動性、治療抵抗性を末梢血リンパ球表面上のP糖蛋白の発現により評価し、治療方針の決定に応用するものである。B、Tリンパ球にわけて評価することにより、免疫抑制療法の選択を行いオーダーメイド治療に役立っている。</p>			
医療技術名	自己免疫疾患による活動性間質性肺炎に対するウリナスタチンパルス療法(第1内科)	取扱患者数	4人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>強力な免疫抑制療法の継続が困難な自己免疫疾患に伴う活動性間質性肺炎に対して、ウリナスタチンのパルス療法を施行し、感染の誘発などを認めることなく、症状、CT所見などの改善を得ている。</p>			
医療技術名	16SrRNA遺伝子を用いた網羅的な細菌叢解析(呼吸器内科)	取扱患者数	95人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>細菌のみが保有する16SrDNA遺伝子を用いて、検体中の細菌DNAのクローンライブラリーを作製し、それぞれの塩基配列を決定することにより、検体中にどんな細菌がどれぐらい存在するかを把握可能であり、感染症診療に役立つ。</p>			
医療技術名	経皮的エタノール注入療法(第3内科)	取扱患者数	36人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>迅速な組織の脱水固定作用をもち、かつ毒性の少ないエタノールを超音波誘導下に細い穿刺針を用いて肝腫瘍内に注入することにより、腫瘍を壊死させる治療法である。原則として、腫瘍径3cm以下、腫瘍数3病変以下の症例を適応としている。</p>			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

医療技術名	経皮経肝的胆道ドレナージ(第3内科)	取扱患者数	12人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>経皮経肝的に超音波誘導下に胆管を穿刺し、ドレナージチューブを胆管内に挿入し留置する手技。胆道閉鎖の減黄や、急性化膿性閉鎖性胆管炎に対する緊急ドレナージとして施行している。肝内胆管拡張のみられない例に対しては、経皮経肝的胆嚢ドレナージ(PTGBD)も施行している。</p>			
医療技術名	経皮経肝的膿瘍ドレナージ(第3内科)	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>PTBDの手技に準じ、肝膿瘍内にドレナージチューブを挿入・留置し、ドレナージをはかっている。</p>			
医療技術名	内視鏡的逆行性胆道ドレナージ(第3内科)	取扱患者数	23人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>経乳頭的に胆管を造影し、閉塞部位を確認した後それに引き続いてガイドワイヤーを用い狭窄部を通過させ、ワイヤーガイド下にドレナージチューブ下にドレナージチューブを胆管内に留置する。主として悪性胆道閉塞例に対し、長いドレナージチューブを留置して、経鼻的に外瘻とする内視鏡手的経鼻胆管ドレナージ(ENBD)を施行している。</p>			
医療技術名	胆管ステント留置術(第3内科)	取扱患者数	8人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>患者のQOLを考慮し、根治手術不能な悪性胆道閉塞に対してメタリックステントを用いて施行している。最近ではポリウレタンでメタリックステントをカバーしたcovered stentを用いている。</p>			
医療技術名	経皮敵ラジオ波焼却療法(第3内科)	取扱患者数	64人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>Radiofrequency ablation(RFA)と呼ばれる治療法は、マイクロ波より周波数の低いラジオ波(460~480KHz)を用いて、腫瘍組織内に熱を発生させ、破壊する方法。超音波誘導下に経皮的に腫瘍部に穿刺する。</p>			
医療技術名	白血球除去療法(第3内科)	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>潰瘍性大腸炎の活動期における緩解促進のための顆粒球吸着用白血球除去カラムを使用し、吸着型の血液浄化をする方法。</p>			
医療技術名	超音波内視鏡下吸引針生検(EUS-FNA)(第3内科)	取扱患者数	12人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>膵癌や消化管粘膜下腫瘍に対して、病理学的診断材料に係る目的にて行っている。</p>			
医療技術名	内視鏡的経乳頭胆管生検(第3内科)	取扱患者数	15人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>胆道癌の確定診断のために経乳頭的に生検鉗子を挿入し、透視下に場所を確認し、生検する方法で、従来のブラッシング細胞診に比べ陽性率向上が期待される。</p>			
医療技術名	内視鏡的粘膜剥離術(第3内科)	取扱患者数	38人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>主に胃癌を内視鏡的に切除する方法で、従来の粘膜の切除と比較して、大型の病変を一括に切除できる。現在15mm以上の病変で、この方法により治療している。</p>			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

医療技術名	修正型電気けいれん療法(神経・精神科)	取扱患者数	300人
当該医療技術の概要 主に難治性うつ病患者を対象に中央手術室において全麻下で電気けいれんを施行する。			
医療技術名	集団精神療法(神経・精神科)	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 うつ病及び統合失調症者に対する心理教育			
医療技術名	非血縁臍帯血移植(小児科)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 難治性白血病に対する臍帯血バンクを利用した臍帯血移植			
医療技術名	血縁骨髄移植(小児科)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 難治性白血病や難治性の悪性固形腫瘍に対する血縁間での骨髄移植			
医療技術名	自家末梢血造血幹細胞移植(小児科)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 小児がんに対する大量化学療法施行時の併用造血幹細胞移植			
医療技術名	遊離空腸食道再建術(第1外科)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 喉頭、頸部食道全摘後に空腸片を採取して、頸部血管と空腸部静脈を吻合(血行再建)し、咽頭空腸、空腸食道を吻合する。			
医療技術名	単孔式内視鏡手術(第1外科)	取扱患者数	130人
当該医療技術の概要 スコープや鉗子などの手術器具を1ヶ所の切開創から挿入して行う術式。整容上の利点などがあり、胆のう摘出術の他、総胆管切石術、肝部分切除術、胃局所切除術等を行っている。			
医療技術名	非小細胞肺癌に対するMAGE-A3がん免疫療法(第2外科)	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 非小細胞肺癌患者を対象とした術後補助療法としてのAS15アジュバント添加、MAGE-A3がん免疫療法剤の有効性を評価するための、二重盲検、無作為化、プラセボ対照、第Ⅲ相臨床試験として施行している。MAGE-A3がん免疫療法により肺癌術後の再発の抑制を期待している。			
医療技術名	慢性疼痛疾患に対する脊髄電気刺激療法(脳神経外科)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 中枢神経疾患にともなう慢性の体幹及び四肢の疼痛に対して脊髄硬膜外に電極を設置して疼痛を電気刺激により治療する。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

医療技術名	四肢痙性に対するバクロフェン注入療法(脳神経外科)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 種々の中枢性疾患により四肢の痙性が強くなり、関節拘縮などにより運動機能障害をきたす。これらの状態に対して、脊髄腔内にバクロフェンを体内に埋め込んだ微量注入ポンプからバクロフェンを注入して治療する。			
医療技術名	脳腫瘍手術における脳機能マッピング(脳神経外科)	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要 脳腫瘍(突発性)はあらゆる脳の部位に発生するが、運動、言語などの領域に発生すると摘出する際、重大な後遺症を残す。術中に運動野や言語野を電気刺激してこれらの部位をさけて摘出を行うことで術後の障害を防ぐ。			
医療技術名	術中腫瘍の蛍光診断(脳神経外科)	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要 悪性脳腫瘍、特に神経膠腫の予後はどこまで手術中に摘出できたかに左右される。腫瘍細胞に術前5・ALA(蛍光色素を発生する薬物)を投与し、術中に光をあてることによって発生する蛍光で残存腫瘍をできる限り取り除く。			
医療技術名	金属材料を用いた脊柱再建固定術(整形外科)	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 脊椎の外傷や脊椎の腫瘍により脊椎が不安定になり、脊椎の障害(下肢麻痺)や耐え難い疼痛などを発症する。これらの患者に対しては金属材料を用いて強固な内固定をすることにより、疼痛や麻痺が改善され、しかも術後早期に離床が可能となる。			
医療技術名	頸椎前方固定術、頸椎椎弓形成術(整形外科)	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要 頸椎症性脊髄症に対して、我々は頸椎椎弓形成術(椎弓を向開きとして、椎弓を温存し、脊柱管を拡大する)を中心とする後方除圧を目的とした後方進入法と、前方固定術(椎間板切除と骨棘切除、椎体間を固定する)を中心とした前方除圧を目的とした前方進入法を行っている。			
医療技術名	術中ナビゲーションを用いた脊椎手術(整形外科)	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 リウマチや脳性麻痺患者などに生じた高度な頸椎不安定症に対し、固定力の強固な椎弓根や椎間関節スクリューを用いた後方固定術を行っているが、スクリュー刺入には危険を伴い高度な技術を要する。我々はより安全にスクリュー刺入を行うために、術中ナビゲーションを使用している。また、高度な靭帯骨化(後縦靭帯や黄色靭帯)の除圧操作においてもナビゲーションを用いてより正確により安全に手術操作を実施している。			
医療技術名	内視鏡を用いた低侵襲脊椎手術(整形外科)	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 腰椎椎間板ヘルニアに対し、我々は内視鏡を用いたヘルニア摘出術を行っている。従来のヘルニア手術に比べ侵襲が少なく、術後回復も早い。また、内視鏡を用いることで、より正確な手術操作が可能となる。			
医療技術名	人工股関節(セメントレス)、骨盤骨切り(RAO)(整形外科)	取扱患者数	99人
当該医療技術の概要 社会の高齢化に伴い、関節の退行変性による変形性股関節症症例が増加してきている。我々は、本症に対してセメントレス人工股関節を行っている。本邦では、二次性の変形性股関節症が多く、特に白蓋形成不全によるものが、約80%を占める。白蓋形成不全に対しては、骨盤回転骨切り(RAO)を行っている。			
医療技術名	マイクロサージャリー、手関節鏡手術(整形外科)	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 外傷による手指の神経、血管損傷、皮膚欠損に対して顕微鏡下での縫合術を行っている。手関節内の三角線維軟骨損傷や滑膜炎に対しては、手関節鏡視下に処置を行い、最小侵襲による確実な処置で早期の社会復帰を目指している。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

医療技術名	前十字靭帯再建術(整形外科)	取扱患者数	55人
当該医療技術の概要 近年、スポーツ活動が盛んになるに従い、膝関節の外傷も増加している。靭帯損傷の中でも前十字靭帯損傷は頻度が高く、放置すればスポーツ活動に支障をきたし変形性関節症も進行する。この前十字靭帯損傷に対し我々は小さな創で大きな可動域と安定性を獲得すべく半腱様筋、薄筋腱を用いた鏡視下靭帯再建術を行っている。			
医療技術名	股関節鏡視下手術(整形外科)	取扱患者数	78人
当該医療技術の概要 Femoroacetabular impingement syndromeと呼ばれる股関節における臼蓋と大腿骨頭～頸部にかけてのインピンジメントは変形性股関節症を惹起しうる病態と考えられている。これに対し股関節鏡視下にインピンジメントを解除するため、臼蓋および大腿骨頭部のトリミング、股関節唇の修復を行なっている。			
医療技術名	肩関節鏡視下関節制動術(整形外科)	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 反復性肩関節脱臼の患者は肩関節の関節唇が損傷され、また関節包が弛緩している。これらを鏡視下に修復することで関節の制動を獲得する手術を関節鏡視下に行っている。			
医療技術名	肩関節鏡視下腱板修復術(整形外科)	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 肩関節腱板損傷に対して従来はMcLaulin法などのOpenでの修復術が行われていたが、当院では肩関節周囲筋の侵襲を軽減でき、スムーズな後療法を実現するために関節鏡視下にアンカーを用いて修復術を行っている。			
医療技術名	脊椎靭帯骨化症に対する脊椎手術(整形外科)	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 後縦靭帯骨化症や黄色靭帯骨化症は特定疾患に指定されている難病である。靭帯の骨化増大により脊柱管内が狭小化し脊髄圧迫をきたして運動機能が著しく損なわれている方には除圧術や骨化除去、骨化浮上などの手術的治療を行い脊髄機能、運動機能の改善に取り組んでいる。			
医療技術名	脊椎損傷、脊椎腫瘍に対する手術(整形外科)	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 転移性脊椎損傷や原発性脊椎腫瘍に対して完全摘出を目的とした脊椎全摘出術や脊髄機能の回復を目的とした除圧固定術を行っている。また脊髄腫瘍に対しては顕微鏡視下に腫瘍摘出術を行っている。			
医療技術名	遊離空腸移植による食道再建(形成外科)	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 耳鼻科、消化器科における下咽頭癌手術後の食道再建を遊離空腸移植によって行う。			
医療技術名	前立腺癌に対する腹腔鏡下前立腺全摘出術(泌尿器科)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 従来、限局性前立腺癌に対して開腹による前立腺全摘出術を施行してきたが、創痛や出血など患者に対する負担が大きな手術であった。今回、我々は指導医のもと腹腔鏡下で、より低侵襲な前立腺全摘出術を開始した。開腹術と比較し合併症も遜色なく、良好な結果を得ており患者の満足度も向上している。			
医療技術名	突発性難聴(難病)の鼓室内ステロイド注入(耳鼻咽喉科)	取扱患者数	55人
当該医療技術の概要 突発性難聴は主に、一側性の急激な高度感音性難聴を来す疾患であり、時にめまいをともなう。その原因についていまだ定説はない。しかし、原因がいずれにしても内耳の酸素摂取量を増加させることは障害された内示の代謝の改善、組織の修復等に寄与すると考えられる。本院においては、上記疾患に対し、鼓室内ステロイド注入を施行して、好成績をおさめている。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

医療技術名	睡眠時無呼吸症候群の診断と治療(耳鼻咽喉科)	取扱患者数	175人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>睡眠時無呼吸症候群は最近一層注目されてきた疾患である。当院では関連検査機器を整備して、この疾患の診断と治療を行っている。睡眠時無呼吸症候群の診断にあたってはその重症度と原因部位診断について留意して検査を行い加療の指針としている。</p>			
医療技術名	選択的動注法による抗癌剤投与療法(耳鼻咽喉科)	取扱患者数	6人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>癌組織へ選択的に且つ高濃度の抗癌剤を投与する選択的動注入法では、殺腫瘍効果の増強と副作用の軽減が期待できる。頭頸部領域では主に上顎癌や舌・口腔底癌において、この選択的動注法の使用が考えられる。本院においては、浅側頭動脈より逆行性にチューブを挿入し、上顎癌と舌癌においてこの選択的動注法を行っている。</p>			
医療技術名	骨髄移植(化学療法センター・血液科)	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>治療抵抗性造血器腫瘍及び造血不全に対して、健常な骨髄を移植することにて治療を目指す。</p>			
医療技術名	末梢血幹細胞移植(化学療法センター・血液科)	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>治療抵抗性造血器腫瘍及び造血不全に対して、末梢血より得られた造血幹細胞を移植することにて治療を目指す。</p>			
医療技術名	臍帯血移植(化学療法センター・血液科)	取扱患者数	1人
<p>当該医療技術の概要</p> <p>治療抵抗性造血器腫瘍及び造血不全に対して、臍帯血を移植し、臍帯血中の造血幹細胞及び免疫細胞にて治療を目指す。</p>			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	82人	・膿疱性乾癬	5人
・多発性硬化症	39人	・広範脊柱管狭窄症	8人
・重症筋無力症	83人	・原発性胆汁性肝硬変	32人
・全身性エリテマトーデス	282人	・重症急性膵炎	5人
・スモン	8人	・特発性大腿骨頭壊死症	29人
・再生不良性貧血	40人	・混合性結合組織病	52人
・サルコイドーシス	54人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	21人	・特発性間質性肺炎	25人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	160人	・網膜色素変性症	23人
・特発性血小板減少性紫斑病	40人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	34人	・肺動脈性肺高血圧症	3人
・潰瘍性大腸炎	114人	・神経線維腫症	8人
・大動脈炎症候群	17人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	5人	・バッド・キアリ (Budd-Chiari) 症候群	0人
・天疱瘡	18人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	54人	・ライソゾーム病	1人
・クローン病	51人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	59人	・脊髄性筋委縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	210人	・球脊髄性筋委縮症	0人
・アミロイドーシス	8人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	3人
・後縦靭帯骨化症	42人	・肥大型心筋症	0人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	23人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	15人	・リンパ管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	21人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	18人	・黄色靭帯骨化症	1人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	37人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	・
・膀胱水圧拡張術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に1回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 32例 / 部検率 13.60%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
関節リウマチの関節破壊ゼロを目指す治療指針の確立、及び根治・修復療法の開発に関する研究	田中 良哉	第1内科学	21,000,000	補 委	厚生労働省科学研究費
関節リウマチに対する生物学的製剤の作用機序、投与方法、治療効果等に関する研究	田中 良哉	第1内科学	2,000,000	補 委	厚生労働省科学研究費
新規疾患,IgG4関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS)の確立のための研究	田中 良哉	第1内科学	700,000	補 委	厚生労働省科学研究費
免疫アレルギー疾患の予防・治療法の開発及び確立に関する臨床研究:関節リウマチ患者の生命予後からみた至適医療の確立に関する臨床研究	田中 良哉	第1内科学	3,000,000	補 委	厚生労働省科学研究費
自己免疫疾患に関する調査研究	田中 良哉	第1内科学	2,200,000	補 委	厚生労働省科学研究費
免疫疾患の病因・病態解析とその制御戦略へのアプローチ	田中 良哉	第1内科学	2,000,000	補 委	厚生労働省科学研究費
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	田中 良哉	第1内科学	1,500,000	補 委	厚生労働省科学研究費
全身性エリテマトーデスにおけるJak3を標的とした治療戦略の確立	平田 信太郎	第1内科学	1,700,000	補 委	文部科学省科学研究費
リンパ球機能分子発現評価による膠原病に対するB細胞標的療法フローチャートの確立	平川 理恵	第1内科学	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費
ストレスに対するホメオサーバイランスのダイナミクスと疾患制御	田中 良哉	第1内科学	9,900,000	補 委	日本学術振興会科学研究費
老年期骨粗鬆症治療戦略確立の探索的研究～骨形成促進作用を持つ新規骨粗鬆症薬～	岡田 洋右	第1内科学	700,000	補 委	日本学術振興会科学研究費
膠原病における抗転写因子抗体の網羅的解析を用いた新規治療戦略の開発	斉藤 和義	第1内科学	700,000	補 委	日本学術振興会科学研究費
関節リウマチ患者単球系細胞に対するJAK3阻害剤の新規薬効解明と投薬法の開発	山岡 邦宏	第1内科学	1,100,000	補 委	日本学術振興会科学研究費
僧帽弁腱索断裂症例における非断裂部テザリングによる逆流の増悪	尾辻 豊	第2内科学	600,000	補 委	日本学術振興会科学研究費
マルチスライスCTによる大動脈弁および弁周囲組織の非侵襲的評価一心エコーとの比較	津田 有輝	第2内科学	3,100,000	補 委	日本学術振興会科学研究費

計 15

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
難治性瘵疾患に関する調査研究	木原 康之	第3内科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同研究	原田 大	第3内科学	200,000	補委 厚生労働省科学研究費
肝細胞マロリー体の形成、分解機構とその細胞生物学的意義	原田 大	第3内科学	900,000	補委 日本学術振興会科学研究費
慢性呼吸不全に対するグレリンの臨床応用研究	迎 寛	呼吸器内科学	700,000	補委 厚生労働省科学研究費
デフェンシンを新しい抗菌薬として開発するための基礎的研究	迎 寛	呼吸器内科学	1,100,000	補委 日本学術振興会科学研究費
難治性神経因性疼痛に対する大脳一次運動野刺激の多施設共同研究:継続的反复的経頭蓋磁気刺激による効果判定とメカニズム解析	魚住 武則	神経内科学	800,000	補委 厚生労働省科学研究費
反復磁気刺激によるパーキンソン病治療の確立	辻 貞俊	神経内科学	800,000	補委 厚生労働省科学研究費
ジストニアの診断及び治療方法の更なる推進に関する研究	辻 貞俊	神経内科学	800,000	補委 厚生労働省科学研究費
悪液質における食欲不振に対する六君子湯の有効性及び作用機序の検討	米良 貴嗣	神経内科学	1,400,000	補委 厚生労働省科学研究費
経頭蓋磁気刺激法を用いた神経因性疼痛治療法の開発	由比 友顕	神経内科学	700,000	補委 日本学術振興会科学研究費
心因性発熱に関与する脳内部位の解明	林 晴男	神経内科学	2,100,000	補委 日本学術振興会科学研究費
てんかんの診断と治療に関する戦略的医療についての研究	辻 貞俊	神経内科学	1,200,000	補委 厚生労働省科学研究費
リワークプログラムを中心とするうつ病の早期発見から職場復帰に至る包括的治療に関する研究	中村 純	精神医学	700,000	補委 厚生労働省科学研究費
タバコ(ニコチン)依存との関係からみた喫煙行動に関する分子遺伝的研究	坂田 深一	精神医学	500,000	補委 文部科学省科学研究費
うつ病に対する運動療法の効果メカニズムに関する画像・精神薬理学的検討	杉田 篤子	精神医学	1,400,000	補委 文部科学省科学研究費

計 15 計 30

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
多様化した気分障害患者に関する画像・分子薬理学的研究	中村 純	精神医学	500,000	補委 日本学術振興会科学研究費
気分障害の治療システムの開発と検証に関する研究	中村 純	精神医学	850,000	補委 厚生労働省科学研究費
気分障害の病態解明と診断治療法の開発に関する研究	吉村 玲児	精神医学	2,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
精神・神経疾患に関するバイオマーカーの探索と臨床応用に関する研究	吉村 玲児	精神医学	1,500,000	補委 厚生労働省科学研究費
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	楠原 浩一	小児科学	1,500,000	補委 厚生労働省科学研究費
TNF受容体関連周期性症候群(TRAPS)の病態の解明と診断基準作成に関する研究	楠原 浩一	小児科学	1,200,000	補委 厚生労働省科学研究費
後天性血友病XIII(13)の実態調査、発症機序の解明と治療方法の開発	白幡 聡	小児科学	500,000	補委 厚生労働省科学研究費
メタボリック症候群発症の背景としての脳脂肪細胞系の生後発達とその異常に関する検討	山本 幸代	小児科学	100,000	補委 日本学術振興会科学研究費
小児期急性脳症の早期診断および予後予測に関する多施設共同研究	楠原 浩一	小児科学	700,000	補委 日本学術振興会科学研究費
膵がん切除例に対する補助療法の向上を目指した多施設共同研究	山口 幸二	第1外科学	500,000	補委 厚生労働省科学研究費
初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同研究	山口 幸二	第1外科学	200,000	補委 厚生労働省科学研究費
ヒト胃癌におけるイノシトール3リン酸受容体発現の意義とその重要性	柴尾 和徳	第1外科学	1,000,000	補委 日本学術振興会科学研究費
悪性胸膜中皮腫の胸腔内発育、進展形式の解明	安元 公正	第2外科学	1,500,000	補委 文部科学省科学研究費
癌精巢抗原KK-LC-1の新規エピトープの同定と養子免疫療法への応用	重松 義紀	第2外科学	9,500,000	補委 文部科学省科学研究費
腫瘍の免疫逃避機構の解明と癌免疫療法への応用	安元 公正	第2外科学	2,100,000	補委 日本学術振興会科学研究費

計 15 計 45

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
肺癌における循環血液中腫瘍細胞と血管内皮細胞の臨床的・探索的検討	田中 文啓	第2外科学	526,000	補委 日本学術振興会科学研究費
生物学的特性からみた食道扁平上皮癌の新しい治療方針の確立	花桐 武志	第2外科学	700,000	補委 日本学術振興会科学研究費
肺癌における発癌過程の腫瘍不均一形成に関する因子の解析	浦本 秀隆	第2外科学	900,000	補委 日本学術振興会科学研究費
顕微鏡感覚で使え、安心・安全を提供する手術用立体内視鏡システムの試作開発と臨床応用	西澤 茂	脳神経外科学	5,388,000	補委 厚生労働省科学研究費
悪性脳腫瘍における光感受性物質の放射線感受性増強効果の検討	山本 淳考	脳神経外科学	800,000	補委 文部科学省科学研究費
「低侵襲手術支援システムの実用化開発と臨床研究」(低侵襲手術支援システムの脳神経外科領域における臨床研究)	西澤 茂	脳神経外科学	1,950,000	補委 文部科学省科学研究費
クモ膜下出血後の脳血管攣縮に対する蛋白リン酸化酵素Cをターゲットにした創薬の研究	西澤 茂	脳神経外科学	500,000	補委 日本学術振興会科学研究費
荷重の増減による間葉系幹細胞から骨・血管・脂肪への分化調節機構の解明とその制御	酒井 昭典	整形外科	2,800,000	補委 日本学術振興会科学研究費
アルコール及び脂肪摂取による骨・骨髄機能連関障害の解明と防止法の開発	中村 利孝	整形外科	3,700,000	補委 日本学術振興会科学研究費
遺伝子改変動物を用いた外傷および関節炎における疼痛・ストレス反応の分子基盤の解明	大西 英生	整形外科	700,000	補委 日本学術振興会科学研究費
変形性関節症の関節変性と骨棘形成機構の解明—時間・組織特異的KOマウスによる解析	中村 英一郎	整形外科	1,700,000	補委 日本学術振興会科学研究費
金属アレルギーの革新的診断・予防・治療法の開発研究	戸倉 新樹	皮膚科学	2,500,000	補委 厚生労働省科学研究費
アトピー性皮膚炎の予防・治療法の開発及び確立に関する研究	戸倉 新樹	皮膚科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
好酸球性膿疱性毛包炎の病態解明と新病型分類の提言	戸倉 新樹	皮膚科学	2,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
難治性慢性痒疹・皮膚そう痒症の病態解析及び診断基準・治療指針の確立	戸倉 新樹	皮膚科学	2,000,000	補委 厚生労働省科学研究費

計 15 計 60

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
紫外線照射による皮膚樹状細胞を介した免疫抑制機序の解明	吉木 竜太郎	皮膚科学	1,600,000	補委 文部科学省科学研究費
脂質メディエーターによる好酸球の皮膚浸潤メカニズムとその生理的役割の解明	杉田 和成	皮膚科学	1,700,000	補委 文部科学省科学研究費
悪性黒色腫におけるPD-1関連免疫抑制とケモカイン受容体関連転移修飾	日野 亮介	皮膚科学	1,700,000	補委 文部科学省科学研究費
表皮角化細胞の獲得免疫前抗原応答	小林 美和	皮膚科学	900,000	補委 文部科学省科学研究費
慢性金属アレルギーの誘発と内因性アトピー性皮膚炎の病態との関与	森 智子	皮膚科学	1,400,000	補委 文部科学省科学研究費
コレシストキニン塗布によるかゆみの制御と新規治療薬への応用	戸倉 新樹	皮膚科学	1,600,000	補委 文部科学省科学研究費
皮膚T細胞性リンパ腫のAID関連microRNAによるモニタリングシステムの構築	戸倉 新樹	皮膚科学	3,500,000	補委 日本学術振興会科学研究費
エクリン汗腺のlabel retaining細胞の同定と汗腺の再生治療の開発	中村 元信	皮膚科学	700,000	補委 日本学術振興会科学研究費
性感染症に関する予防、治療の体系化に関する研究	松本 哲朗	泌尿器科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
膀胱痛および膀胱機能の中樞性制御におけるTRPチャンネルの役割の解明	小林 瑞	泌尿器科学	1,230,000	補委 文部科学省科学研究費
小眼球による視覚障害の原因を特定するための疫学調査と診断・治療基準の創成	近藤 寛之	眼科学	2,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
緑内障の発症機序に関する分子生物学的研究	田原 昭彦	眼科学	1,000,000	補委 日本学術振興会科学研究費
光学的視覚刺激装置の開発と調節緊張緩和と近視の予防に関する研究	岩崎 常人	眼科学	600,000	補委 日本学術振興会科学研究費
小児網膜剥離の疾患概念の構築: Coats病の病因解明	近藤 寛之	眼科学	1,500,000	補委 日本学術振興会科学研究費
鼻腔における温度センサーTRPチャンネルの発現と機能の検討	柴田 美雅	耳鼻咽喉科学	1,400,000	補委 文部科学省科学研究費

計 15 計 75

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
アレルギー性鼻炎におけるTh2サイトカイン制御因子としてのZNF143の機能解析	若杉 哲郎	耳鼻咽喉科学	700,000	補委 文部科学省科学研究費
中耳真珠腫組織における水素イオン濃度と水素イオンセンサー蛋白からみた骨吸収機序	鈴木 秀明	耳鼻咽喉科学	800,000	補委 日本学術振興会科学研究費
環境汚染物質が胎児発育に与える影響の研究	柴田 英治	産科婦人科学	600,000	補委 文部科学省科学研究費
構造的転写共役因子を分子標的とした婦人科悪性腫瘍治療と薬剤耐性機構の解明	蜂須賀 徹	産科婦人科学	1,700,000	補委 日本学術振興会科学研究費
3テスラMRSを用いた脳内GABAの測定により夜勤従事者の疲労を客観的に評価する	興梠 征典	放射線科学	500,000	補委 日本学術振興会科学研究費
選択的Naチャンネル阻害薬の開発を目指した、吸入麻酔薬・鎮痛薬の作用機序解析	堀下 貴文	麻酔科学	700,000	補委 文部科学省科学研究費
全身麻酔薬の作用機序解明を目指したTRP受容体に対する全身麻酔薬の影響解析	寺田 忠徳	麻酔科学	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費
外科的侵襲が免疫能抑制、臓器障害をおこす機序の解明とその制御法の開発	川崎 貴士	麻酔科学	1,500,000	補委 日本学術振興会科学研究費
癌性疼痛に対する新たな鎮痛薬開発を目指したATP受容体に関する疼痛機序の解明	佐多 竹良	麻酔科学	1,300,000	補委 日本学術振興会科学研究費
高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	2,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
スモンに関する調査研究	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
シャルコー・マリー・トゥース病の診断・治療・ケアに関する研究	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
脳卒中後うつに対する塩酸パロキセチン投与が長期的なADL、QOLに及ぼす影響	高橋 真紀	リハビリテーション医学	500,000	補委 文部科学省科学研究費
高次脳機能障害を有する外傷性脳損傷者に対する長時間作業時の注意力変化	岩永 勝	リハビリテーション医学	600,000	補委 文部科学省科学研究費
カーボン長下肢装具がポリオ罹患者の歩行効率を改善する要因の研究	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	1,700,000	補委 日本学術振興会科学研究費

計 15 計 90

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ロボット歩行訓練時における脊髄損傷者の脳賦活	和田 太	リハビリテーション医学	1,200,000	補 委	日本学術振興会科学研究費
上肢訓練ロボットを用いた訓練が脳賦活に及ぼす影響	小田 太士	リハビリテーション医学	1,500,000	補 委	日本学術振興会科学研究費
脳卒中片麻痺上肢に対する経頭蓋直流刺激下ロボット補助訓練の効果	佐伯 覚	リハビリテーション医学	300,000	補 委	日本学術振興会科学研究費
足圧パターンを用いた簡易な膝継手立脚期制御システムの研究開発	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費
植物由来化合物のカテコールアミン神経機能と寿命に及ぼす影響	高橋 浩二郎	薬剤部	1,100,000	補 委	日本学術振興会科学研究費
労働者のメンタルヘルス不調の予防と早期支援・介入のあり方に関する研究	堤 明純	産業医実務研修センター	850,000	補 委	厚生労働省科学研究費
労働者のメンタルヘルス不調の第一次予防の浸透手法に関する調査研究	堤 明純	産業医実務研修センター	250,000	補 委	厚生労働省科学研究費
芦屋町における児童生徒の保健管理に関する調査研究	尾辻 豊	第2内科学	1,500,000	補 委	芦屋町
早期糖尿病の進展抑制に関する無作為化比較臨床試験	原田 大	第3内科学	50,000	補 委	(財)日本糖尿病学会 日本糖尿病進展抑制研究会
静脈血栓症予防のための小型下肢運動補助ロボットの開発	岡本好司	第1外科学	400,000	補 委	(財)北九州産業学術推進機構
「Stage II 大腸癌に対する術後補助化学療法に関する研究」第Ⅲ相臨床試験	山口幸二	第1外科学	315,000	補 委	(財)先端医療新興財団
平成22年度 研究成果最適展開支援事業 FSステージ探索タイプ 足圧パターンを用いた簡易な膝継手立脚期制御システムの研究開発	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	1,300,000	補 委	(独)科学技術振興機構
				補 委	

計 12 計 102

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

2 論文発表等の実績(平成22年度実績)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ARTHRITIS&RHEUMATISM 62:952-959 (2010年4月)	Mast cell-derived tryptase inhibits apoptosis of human rheumatoid synovial fibroblasts via rho-mediated signaling.	Sawamukai, N	第1内科学
九州リウマチ 30:7-11 (2010年4月)	低分子化合物による関節リウマチの治療 (Jak阻害薬とSyk阻害薬)	山岡 邦宏	第1内科学
Annals Rheumatic Diseases 69:1286-1291 (2010年4月)	Discontinuation of infliximab after attaining low disease activity in patients with rheumatoid arthritis: RRR (remission induction by Remicade in RA) study.	Tanaka, Y	第1内科学
九州リウマチ 30:7-11 (2011年4月)	低分子化合物による関節リウマチの治療	山岡 邦宏	第1内科学
World J Biol Psychiatry. 11:121-128 (2010年5月)	Serum brain-derived neurotrophic factor levels as a novel biological marker for the activities of psychiatric symptoms in systemic lupus erythematosus.	Saito, K	第1内科学
Mod Rheumatol. 20:139-146 (2010年5月)	Etanercept overcomes P-glycoprotein-induced drug resistance in lymphocytes of patients with intractable rheumatoid arthritis.	Tsujimura, S	第1内科学
Allergol Int. 59:161-166 (2010年5月)	Curdlan induces DC-mediated Th17 polarization via Jagged1 activation in human dendritic cells.	Tanaka, Y	第1内科学
THERAPEUTIC RESEARCH. 31:709-714 (2010年5月)	2型糖尿病合併高コレステロール血症患者におけるアトルバスタチンとロスバスタチンの血清脂質に及ぼす影響の比較検討.	森 博子	第1内科学
Biochem Biophys Res Commun. 394:317-322 (2010年6月)	Galectin-9 induces osteoblast differentiation through the CD44/Smad signaling pathway.	Tanikawa, T.	第1内科学
Diabetes Journal. 38:29-33 (2010年6月)	著明なインスリン抵抗性を呈した polycystic over syndrome に対し生活習慣指導と少量のビグアナイドが奏効した1例.	森 博子	第1内科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本内科学会雑誌. 99:160-162 (2010年6月)	抗IL-6受容体抗体 tocilizumab が著効した 二次性アミロイドーシス合併関節リウマチ の1例.	宮川 一平	第1内科学
Inflamm Res. 59:659-666 (2010年8月)	C5a promotes migration, proliferation, and vessel formation in endothelial cells.	Yamaoka, K	第1内科学
Frontiers in Rheumatology & Clinical Immunology 4:39-46 (2010年8月)	RA とサイトカインシグナル伝達:シグナル 伝達阻害効果	山岡 邦宏	第1内科学
Rheumatology (Oxford). 49:1447-1460 (2010年8月)	Histone deacetylase inhibitors MS-275 and SAHA induced growth arrest and suppressed lipopolysaccharide-stimulated NF-kappaB p65 nuclear accumulation in human rheumatoid arthritis synovial fibroblastic E11 cells.	Tanaka, Y.	第1内科学
Frontiers in Rheumatology & Clinical Immunology 4:150-154 (2010年8月)	ヒト Th17 細胞の動態と治療薬による修飾	中野 和久	第1内科学
Int.J.Clin. Rheumatol 5:391-393 (2010年9月)	Achieving drug-free remission:elucidating the role of TNF in rheumatoid arthritis.	Tanaka, Y	第1内科学
Diabetes Frontier. 21:593-598 (2010年10月)	躁状態に伴う生活習慣の変化により著明な 血糖コントロール増悪をきたした2型糖尿病 の2例.	新生 忠司	第1内科学
日本内科学会雑誌. 99:115-132 (2010年10月)	関節炎の鑑別 診断と治療の進歩	田中 良哉	第1内科学
International Review of Diabetes. 2:42-43 (2010年10月)	空腹時血糖異常(IFG)例における2型糖尿病 の予測因子としてのウエスト周囲径および体 重の増加:ベースライン BMI の影響-DESIR 研究の結果から-	岡田 洋右	第1内科学
日本内科学会雑誌. 99:2503-2520 (2010年10月)	関節炎の鑑別 診断と治療の進歩	田中 良哉	第1内科学

10件

20件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
糖尿病 53:803-809 (2010年11月)	成人発症 nesidioblastosis による難治性低血糖症に対してジアゾキサイドが長期にわたり有効であった1例.	新生 忠司	第1内科学
Mod Rheumatol. 20:531-538 (2010年12月)	Etanercept (ETN) with methotrexate (MTX) is better than ETN monotherapy in patients with active rheumatoid arthritis despite MTX therapy: a randomized trial.	田中 良哉	第1内科学
Circulation Journal 74:807-808 (2010年4月)	Three-Dimensional transesophageal echocardiographic recognition of mobile mass protruding into the left main coronary orifice in a patient with aortic stenosis	Iwataki, M	第2内科学
Eur J Echocardiogr 11:352-358 (2010年4月)	Continuous positive airway pressure ameliorates sleep-induced left ventricular systolic dysfunction: demonstration by two-dimensional speckle tracking echocardiography.	Haruki, N	第2内科学
Eur J Echocardiogr 11:369-376 (2010年4月)	Pitfalls of anatomical aortic valve area measurements using 2D transesophageal echocardiography and the potential of 3D transesophageal echocardiography.	Takeuchi, M	第2内科学
Nephrol Dial Transplant 25:1109-1119 (2010年4月)	An integrin-activating peptide, PHSRN, ameliorates inhibitory effects of conventional peritoneal dialysis fluids on peritoneal wound healing.	Miyamoto, T	第2内科学
Clin Exp Nephrol 14: 367-371 (2010年8月)	Minimal change nephrotic syndrome in a patient with strongyloidiasis.	田村 雅仁	第2内科学
Circulation Journal 74:2649-2657 (2010年12月)	Assessment of the Aortic Root using real-time 3D transesophageal echocardiography	竹内 正明	第2内科学
Circulation Journal 74:2681-2692 (2010年12月)	Spontaneous development of left ventricular hypertrophy and diastolic dysfunction in mice lacking all nitric oxide synthases	Shibata, K.	第2内科学
Pancreas 39:385-391 (2010年4月)	Overexpression of smad6 exacerbates pancreatic fibrosis in murine caerulein-induced chronic pancreatic injuries.	Harada, M	第3内科学

10件

30件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Gastroenterology and Hepatology 25:839-839 (2010年5月)	Gastrointestinal: clonic foreign bodies needing surgical removal.	Kume, K	第3内科学
Hepato-Gastroenterology 57:668-673 (2010年6月)	Gastric mucosal cancer smaller than 7mm can be treated with conventional endoscopic mucosal resection as effectively as with endoscopic submucosal dissection.	Watanabe, T	第3内科学
MOLECULAR MEDICINE REPORTS 3:685-687 (2010年7月)	Redox state of albumin is not associated with colloid osmotic pressure.	Harada, M	第3内科学
Pancreas 39:829-835 (2010年8月)	Epidemiological study of pancreatic diabetes in Japan in 2005 a nationwide study.	Kihara, Y	第3内科学
Clin J Gastroenterol 3:186-190 (2010年8月)	Three cases of locally advanced pancreatic cancer successfully treated with chemoradiation and chemotherapy.	Taguchi, M	第3内科学
Clin J Gastroenterol 3:254-258 (2010年10月)	A case of severe acute hepatitis C and delayed antibody production due to rituximab therapy.	Hiura, M	第3内科学
産業医科大学雑誌 32:349-365 (2010年11月)	消化器内視鏡の新しいデバイスの開発とその考え方～低侵襲治療時代におけるストラテジー～	久米恵一郎	第3内科学
肝臓 51:615-619 (2010年11月)	成人発症 B 型肝炎ウイルスに関連した Gianotti-Crosti 症候群の 1 例	本間 雄一	第3内科学
Clin J Gastroenterol 3:327-331 (2010年12月)	Acute hepatic failure secondary to extensive hepatic replacement by metastatic amelanotic melanoma:an autopsy case report.	Fusasaki, T	第3内科学
The Journal of Laboratory and Clinical Medicine 156(6):350-357 (2010年12月)	Effects of long-term zinc treatment in Japanese patients with Wilson disease: efficacy, stability, and copper metabolism	Harada, M	第3内科学

10件

40件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Medical Science Monitor 17(2):7-11 (2011年2月)	The incidence of hepatocellular carcinoma associated with hepatitis C infection decreased in Kyusyu area.	Tabaru, A	第3内科学
Internal Medicine 50(4):315-319 (2011年2月)	A case of adult autoimmune hepatitis with histological features of giant cell hepatitis	Hayashi, H	第3内科学
Colorectal Disease 13(3):341 (2011年3月)	Infliximab treatment in a patient with Crohn's disease on haemodialysis	Kume, K	第3内科学
Hepatology Research 41(3):270-276 (2011年3月)	Late diagnosed Wilson disease with hepatic and neurological manifestations	Honma, Y	第3内科学
Respirology 15:706-713 (2010年4月)	Peak power estimated from 6-minute walk distance in Asian patients with idiopathic pulmonary fibrosis and chronic obstructive pulmonary disease	迎 寛	呼吸器科
日本呼吸器学会雑誌 48:88-292 (2010年4月)	肺炎球菌による膿胸を合併したウエステルマン肺吸虫症の1例	迎 寛	呼吸器科
Hum Psychopharmacol Clin Exp 25:276-279 (2010年4月)	Varenicline does not increase serum BDNF levels in patients with nicotine dependence.	吉井 千春	呼吸器科
European Respiratory Journal 35(4):821-829 (2010年4月)	Prifenidone in idiopathic pulmonary fibrosis	Mukae.H	呼吸器科
Respiration 81(3):196-205 (2010年5月)	Differences in response to pulmonary rehabilitation on idiopathic pulmonary fibrosis and chronic obstructive pulmonary disease	Mukae,H	呼吸器科
日本化学療法学会雑誌 58(3):380-381 (2010年5月)	呼吸器感染症～肺炎(特に市中肺炎)の診断と治療の現状～	迎 寛	呼吸器科

10件
50件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Respiratory Medicine 104:895-901 (2010年6月)	HSP47 in lung fibroblasts is a predictor of survival in fibrotic nonspecific interstitial pneumonia	迎 寛	呼吸器科
肺癌 50:272-279 (2010年6月)	加濃式社会的ニコチン依存度調査票(KTSND)を用いた日本肺癌学会総会参加者の社会的ニコチン依存の評価	吉井 千春	呼吸器科
日本胸部臨床 69:552-556 (2010年6月)	尿毒症性胸膜炎と診断した一例	生越 貴明	呼吸器科
日本禁煙学会雑誌 5:79-89 (2010年6月)	禁煙指導者研修における動機づけ面接法の「2つのやり方 練習」の有用性について	吉井 千春	呼吸器科
日本呼吸器学会雑誌 48:511-515 (2010年7月)	限局性悪性胸膜中皮腫の1例	神崎未奈子	呼吸器科
Internal Medicine 49:1437-1440 (2010年7月)	Primary ciliary dyskinesia that responded to long-term, low-dose clarithromycin	迎 寛	呼吸器科
日本呼吸器学会雑誌 48:520-523 (2010年7月)	帝王切開後に肺水腫による急性呼吸不全を来した1例	迎 寛	呼吸器科
Internal Medicine 49:1609-1611 (2010年8月)	Sarcoidosis in a patient with systemic sclerosis and primary biliary cirrhosis	Mukae, H.	呼吸器科
Informa Healthcare 36:411-419 (2010年8月)	Differential effects of human neutrophil peptide-1 on growth factor and interleukin-8 production by human lung fibroblasts and epithelial cells	迎 寛	呼吸器科
日本呼吸器学会雑誌 48:565-572 (2010年8月)	非喫煙・前喫煙教職員を対象とした受動喫煙による健康被害への意識のアンケート調査	吉井 千春	呼吸器科

10件

60件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The Canadian journal of Cardiology 26:258-269 (2010年8月)	Ultrastructural changes in atherosclerotic plaques following the instillation of airborne particulate matter into the lungs of rabbits	矢寺 和博	呼吸器科
日本内科学会雑誌 99(8):1900-1902 (2010年8月)	胸腔鏡下肺生検で診断しえた pulmonary hyalinizing granuloma の1例	矢寺 和博	呼吸器科
Chest 138:730-733 (2010年9月)	Two cases with pulmonary mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma successfully treated with clarithromycin	Mukae, H	呼吸器科
Respiration 81(2):107-117 (2010年12月)	Direct hemoperfusion using immobilized polymyxin B in patients with rapidly progressive interstitial pneumonias : a retrospective study	Mukae,H	呼吸器科
臨床神経学 50:246-251 (2010年4月)	印環細胞癌に合併した全身性筋炎および亜急性感覚性ニューロパチーの一例	安田 千春	神経内科学
臨床神経学 50:412-414 (2010年6月)	筋萎縮性側索硬化症患者における介護負担とQOLの検討	中川 悠子	神経内科学
てんかん研究 28:17-23 (2010年6月)	高齢者初発てんかんの治療に対するアンケート調査 —エキスパートオピニオン研究—	山野 光彦	神経内科学
神経治療 27:602-605 (2010年7月)	標準的神経治療:慢性疼痛 2. 慢性疼痛の診断	岡田 和将	神経内科学
Physiology&Behavior 101:124-131 (2010年8月)	Repeated social defeat stress induces chronic hyperthermia in rats	Hayashida, S.	神経内科学
臨と研 87:1047-1051 (2010年8月)	頭痛治療の実際 群発頭痛	岡田 和将	神経内科学

10件

70件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床脳波 52:509-519 (2010年9月)	不随意運動と電気生理	魚住 武則	神経内科学
Epilepsy Research 93:33-38 (2010年10月)	Decision-making in temporal lobe epilepsy examined with the Iowa gambling Task	Yamano, M	神経内科学
Psychiatry Clin Neurosci 64:199-201 (2010年4月)	Attitudes of early-career psychiatrists in Japan toward child and adolescent psychiatry and their career decision	Nakano, W	精神医学
精神神経学雑誌 112:325-325 (2010年4月)	初期臨床研修制度の現状と課題:若手精神科医を対象とした意識調査の結果から	中野和歌子	精神医学
Psychiatry Res. 182:53-57 (2010年4月)	Critical examination of a correlation between brain gamma-aminobutyric acid(GABA)concentrations and a personality trait of extroversion in healthy volunteers as measured by a 3 Tesla proton magnetic resonance spectroscopy study	Goto, N	精神医学
Psychiatry Res 177:268-269 (2010年5月)	A functional polymorphism(Ser326Cys)of the human 8-oxoguanine DNA glycosylase(hOGG1)gene and schizophrenia	Sakata, S.	精神医学
Neuropharmacology. 58:1168-1173 (2010年6月)	Association analysis of SIGMAR1 with major depressive disorder and SSRI response	Yoshimura, R	精神医学
Asian Journal of Psychiatry 3:60-63 (2010年6月)	Differences in the preferred antipsychotics for acute schizophrenia among young psychiatrists in two regions of Japan	Nakano, W	精神医学
Neurosci Res 67:250-255 (2010年7月)	Serotonin 6 receptor gene and mood disorders:case-control study and meta-analysis.	Yoshimura, R	精神医学
Hum Psychopharmacol. 25:481-486 (2010年8月)	Pharmacogenetic study of serotonin 6 receptor gene with antidepressant response in major depressive disorder in the Japanese population.	Yoshimura, R.	精神医学

10件

80件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hum Psychopharmacol. 25:487-490 (2010年8月)	No difference in adherence to paroxetine between depressed patients with early remission and those with late remission based on monitoring of plasma paroxetine concentrations.	Yoshimura, R.	精神医学
Neuromolecular Med 12:237-242 (2010年9月)	HTR2A is associated with SSRI response in major depressive disorder in a Japanese Cohort	Yoshimura, R	精神医学
World J Biol Psychiatry 11:803-812 (2010年9月)	The catechol-O-methyl-transferase gene in tardive dyskinesia.	Shinkai, T	精神医学
精神神経学雑誌 112:982-985 (2010年10月)	神経栄養因子 BDNF 仮説の検証	吉村 玲児	精神医学
J Affect Disord. 126:167-173 (2010年10月)	SIRT1 gene is associated with major depressive disorder in the Japanese population.	Yoshimura, R	精神医学
Hum Psychopharmacol. 25:566-569 (2010年10月)	Plasma levels of brain-derived neurotrophic factor and interleukin-6 in patients with dysthymic disorder: comparison with age- and sex-matched major depressed patients and healthy controls.	Yoshimura, R	精神医学
Biol Trace Elem Res 137:55-62 (2010年10月)	The association of metallothionein-4 gene polymorphism and renal function in long-term lead-exposed workers.	Chen, HI	精神医学
Psychiatry Clin Neurosci. 64:520-530 (2010年11月)	Impact of biopsychosocial factors on psychiatric training in Japan and overseas: are psychiatrists oriented to mind, brain, or sociocultural issues?	Nakano, W	精神医学
日本神経精神薬理学 雑誌 30:181-184 (2010年11月)	気分障害とBDNF	吉村 玲児	精神医学
臨床精神薬理 13:2253-2258 (2010年12月)	各新規抗うつ薬の臨床薬理学的特徴と位置づけ	吉村 玲児	精神医学

10件

90件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 34:1480-1483 (2010年12月)	No alterations of brain GABA after 6 months of treatment with atypical antipsychotic drugs in early-stage first-episode schizophrenia.	Goto, N	精神医学
精神神経学雑誌 112:1240-1245 (2010年12月)	精神科医としての産業医学現場での経験	新開 隆弘	精神医学
日本生物学的精神医学学会誌 21:245-250 (2010年12月)	全身性エリテマトーデスに伴う精神症状の特徴とバイオマーカー	杉田 篤子	精神医学
Hum Genet 127:411-419 (2010年4月)	PD1 as a common candidate susceptibility gene of subacute sclerosing panencephalitis	Kusuhara, K	小児科
Pediatr Int 52: 86-88 (2010年4月)	Toxic shock syndrome-like exanthematous disease in a 2-month-old infant	Kusuhara, K.	小児科
Eur J Clin Microbiol Infect Dis 29:519-525 (2010年5月)	Identification of bacterial pathogens in pediatric community-acquired lower respiratory tract infection using a simplified procedure of sputum sampling and examination: comparison between hospitalized children with and without underlying diseases	Kusuhara, K.	小児科
Clin Exp Immunol 160:446-455 (2010年5月)	Unique activation status of peripheral blood mononuclear cells at acute phase of Kawasaki disease	Kusuhara, K	小児科
Pediatr Int 52:134-136 (2010年6月)	Incomplete Kawasaki disease in a patient with chronic granulomatous disease	Kusuhara, K	小児科
Journal of UOEH 32(2):205-211 (2010年6月)	Brain hypothermia therapy for newborns with severe birth asphyxia :an experience from a single neonatal intensive care unit	Kusuhara, K	小児科
Eur J Pediatr 169:899-902 (2010年7月)	Hepatitis-associated aplastic anemia during a primary infection of genotype 1a torq teno virus	Kusuhara, K	小児科

10件

100件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pediatric Nephrology 25(7):1343-1348 (2010年7月)	Branchio-oto-renal syndrome caused by partial EYA1 deletion due to LINE-1 insertion	Kusuhara, K	小児科
Eur J Pediatr 169:965-970 (2010年8月)	Increased plasma isoprostane is associated with visceral fat, high molecular weight adiponectin, and metabolic complications in obese children	Kusuhara, K.	小児科
Journal of Pharmacological Sciences 114:379-389 (2010年11月)	Complete disruption of all nitric oxide synthase genes causes markedly accelerated renal lesion formation following unilateral ureteral obstruction in mice in vivo.	Kusuhara, K	小児科
Brain And Development 43(1):47-50 (2011年1月)	The ketogenic diet as an effective treatment for Ohtahara syndrome	Kusuhara, K	小児科
Microb Pathog 50(2):109-113 (2011年2月)	Systemic cytokine response in moribund mice of streptococcal toxic shock syndrome model	Kusuhara, K	小児科
Arterioscler Thromb Vasc Biol 31(5):1093-1099 (2011年3月)	Nod1 ligands induce site-specific vascular inflammation	Kusuhara, K	小児科
日本外科感染症学会雑誌 7:149-154 (2010年4月)	特集:外科的感染症に起因するDICの診断と治療の up to date 敗血症 DIC の発症機序と治療 HMGB1 とトロンボモデュリン (Thrombomodulin)	岡本 好司	第1外科学
日本外科感染症学会雑誌 7:127-135 (2010年4月)	急性期 DIC の臓器不全と予後	岡本 好司	第1外科学
胆道 24: 219-226 (2010年5月)	胆嚢癌と識別困難であった黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例—本邦報告81例の検討	鳥越 貴行	第1外科学
J Cell Biochem 110:104-111 (2010年5月)	Functional expression of double-stranded RNA-dependent protein kinase in rat intestinal epithelial cells	Yamaguchi, K	第1外科学

10件

110件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Clin Oncol 15:227-233 (2010年6月)	Quality of guideline development assessed by the evaluation committee of the Japan society of clinical oncology	Okamoto, K	第1外科学
Throm Res 126:74-78 (2010年7月)	Frequency and hemostatic abnormalities in pre-DIC patients	Okamoto, K	第1外科学
日本外科系連合学会誌 35:616-620 (2010年8月)	腹腔鏡下 S 状結腸切除術を施行した馬蹄腎並存 S 状結腸癌の 1 例	鳥越 貴行	第1外科学
Coagulation \$ Inflammation 4(2):9-16 (2010年8月)	急性期 DIC 診断基準の臨床応用	岡本 好司	第1外科学
Case Rep Gastroenterol 4:351-355 (2010年9月)	Rectal carcinoma with heterotopic bone : report of a case	Nagao, Y	第1外科学
Am J Hematol 85: 691-694 (2010年9月)	Modified Non-over DIC diagnostic criteria predict the early phase of overt-DIC	Okamoto, K.	第1外科学
Surg Technol Int 20:133-136 (2010年10月)	Laparoendoscopic single-site fenestration of giant hepatic cyst	Shibao, K	第1外科学
Cell Calcium 48:315-323 (2010年11月)	The type III inositol 1,4,5-trisphosphate receptor is associated with aggressiveness of colorectal carcinoma	Shibao, K	第1外科学
日本血栓止血学会誌 21:619-622 (2010年12月)	HMGB1 の基礎と臨床	岡本 好司	第1外科学
日本臨床外科学会雑誌 71:3054-3058 (2010年12月)	頸部に発生した悪性線維性組織球症の 1 例	長尾 祐一	第1外科学

10件

120件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Anticancer Research 30:4999-5010 (2010年12月)	Gamma-secretase complexes regulate the responses of human pancreatic ductal adenocarcinoma cells to taxanes.	Yamaguchi, K	第1外科学
Surg Today 40:360-364 (2010年4月)	Mediastinal metastasis from a fibrolamellar hepatocellular carcinoma: Report of a case.	Ichiki, Y	第2外科学
Asian J Surg 33: 89-93 (2010年4月)	Surgical resection for patients with mucinous bronchioloalveolar carcinoma.	Oka, S.	第2外科学
Lung Cancer 68: 198-203 (2010年5月)	Acquired resistance to gefitinib: the contribution of mechanisms other than the T790M, MET, and HGF status.	Onitsuka, T	第2外科学
J Thorac Oncol 5:591-596 (2010年5月)	Comprehensive molecular analyses of lung adenocarcinoma with regard to the epidermal growth factor receptor, K-ras, MET, and hepatocyte growth factor status.	Onitsuka, T	第2外科学
Int J Surg 8:391-394 (2010年6月)	Results of surgical resection for patients with large cell carcinoma of the lung.	Hanagiri, T	第2外科学
肺癌 50:308-312 (2010年6月)	肺衝突癌の2切除例	竹中 賢	第2外科学
J Thorac Oncol 5: 825-829 (2010年6月)	Time trends of surgical outcome in patients with non-small cell lung cancer.	Hanagiri, T	第2外科学
Anticancer Res 30:3039-3044 (2010年7月)	Phase II trial of adjuvant chemotherapy with bi-weekly carboplatin plus paclitaxel in patients with completely resected non-small cell lung cancer.	Sugaya, M	第2外科学
Anticancer Res 30:2631-2639 (2010年7月)	Identification of a tumour associated antigen in lung cancer patients with asbestos exposure.	Yasuda, M.	第2外科学

10件

130件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Anticancer Res 30: 2513-2517 (2010 年 7 月)	Epithelial-mesenchymal transition in EGFR-TKI acquired resistant lung adenocarcinoma.	Uramoto, H.	第2外科学
J Thorac Oncol 5:1136-1142 (2010 年 8 月)	Correlation between HLA alleles and EGFR mutation in japanese patients with adenocarcinoma of the lung.	Uramoto, H	第2外科学
J UOEH 32:257-264 (2010 年 9 月)	悪性胸膜中皮腫の治療経験	浦本 秀隆	第2外科学
J UOEH 32: 237-243 (2010 年 9 月)	肺クリプトコックス症に対する外科切除例の検討	竹中 賢	第2外科学
Curr Res in Cancer 4 :39-40 (2010 年 9 月)	Tumor antigens and serological biomarkers for the diagnosis of asbestos-related malignancies.	Yasuda, M	第2外科学
Anticancer Res 30:3273-3278 (2010 年 9 月)	Expression of dysadherin and cytokeratin as prognostic Indicators of disease-free survival in patients with stage I NSCLC.	Ono, K	第2外科学
Cancer Sci 101:2115-2120 (2010 年 10 月)	Identification of a lung cancer antigen evading CTL attack due to loss of human leukocyte antigen (HLA) class I expression.	Baba, T	第2外科学
Anticancer Res 30:3939-3944 (2010 年 10 月)	A positive relationship between filamin and VEGF in patients with lung cancer.	Uramoto, H.	第2外科学
Anticancer Res 30:4309-4316 (2010 年 10 月)	TS, DHFR and GARFT expression in non-squamous cell carcinoma of nsclc and malignant pleural mesothelioma patients Treated with pemetrexed.	Uramoto, H.	第2外科学
Anticancer Res 30:4219-4222 (2010 年 10 月)	EGFR-activating mutations are not present in breast tumors of japanese patients.	Uramoto, H.	第2外科学

10件

140件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Cardiothorac Surg. 29:92-92 (2010年10月)	Clinicopathological characteristics of resected adenosquamous cell carcinoma of the lung: risk of coexistent double cancer.	Uramoto, H	第2外科学
Asian J Surg 33: 212-217 (2010年10月)	Surgical treatment of Patients With stenosis of the central airway due to atacheal tumours.	Yasuda, M	第2外科学
Anticancer Res. 30:4691-4694 (2010年11月)	Video-assisted thoracoscopic pericardiectomy for malignant pericardial effusion.	Uramoto, H	第2外科学
Anticancer Res. 30:4717-4720 (2010年11月)	Immunohistochemical staining with deltaNp63 Is useful for distinguishing the squamous cell component of adenosquamous Cell carcinoma of the lung.	Uramoto, H	第2外科学
Anticancer Res. 30:4695-4700 (2010年11月)	A randomized phase II trial of adjuvant chemotherapy with bi-weekly carboplatin plus paclitaxel versus carboplatin plus gemcitabine in patients with completely resected non-small cell lung cancer.	Uramoto, H	第2外科学
Lung Cancer 70:320-328 (2010年12月)	Association between lymphangiogenesis-/micrometastasis- and adhesion- related molecules in resected stage I NSCLC.	Yamashita, T.	第2外科学
胸部外科 63:1101-1108 (2010年12月)	非小細胞肺癌副腎転移に対する治療経験	岩浪 崇嗣	第2外科学
Ann Thorac Surg. 90:2028-2030 (2010年12月)	Simple prophylactic fixation for lung torsion.	Uramoto, H.	第2外科学
J UOEH 32:341-348 (2010年12月)	乳腺紡錘細胞癌の3切除例 201012	永田 好香	第2外科学
乳癌の臨床 25: 659-664 (2010年12月)	乳腺 invasive micropapillary carcinoma の1切除例	永田 好香	第2外科学

10件

150件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Anticancer Res 31(1):277-279 (2011年1月)	Two cases with a long-term survival following multidisciplinary treatment for recurrent breast cancer after surgery	Uramoto,H	第2外科学
日本呼吸器外科学会雑誌 25(1):21-24 (2011年1月)	空洞性病変を伴った肺犬糸状虫症の1例	下川 秀彦	第2外科学
Lung Cancer 71:350-355 (2011年2月)	Expression of estrogen receptor beta predicts a clinical response and longer progression-free survival after treatment with EGFR-TKI for adenocarcinoma of the lung	Nose,N	第2外科学
Anticancer Res 31(2):619-624 (2011年2月)	The development of bronchopleural fistula in lung cancer patients after major surgery:31 years of experience with 19 cases	Uramoto,H	第2外科学
Int J Surg 9(2):155-159 (2011年2月)	Limited pulmonary resection for peripheral small-sized adenocarcinoma of the lung	Ichiki,Y	第2外科学
J OOEH 33(1)41-45 (2011年3月)	肺硬化性血腫に対する外科切除例の検討	岡 壮一	第2外科学
Anticancer Res 31(3)855-860 (2011年3月)	Lack of direct association between EGFR mutations and ER beta expression In lung cancer	Onitsuka,T	第2外科学
Cancer Science 101:1367-1373 (2010年6月)	Y-box binding protein-1 is a novel molecular target for tumor vessels	Takahashi, M	脳神経外科
Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism 95:4003-4011 (2010年8月)	Possible relevance between prohormone convertase 2 expression and tumor growth in human adrenocorticotropin-producing pituitary adenoma	Nishizawa, S.	脳神経外科
整形・災害外科 53:742-743 (2010年5月)	整形外科手術 私のポイント Femoroacetabular impingement に対する股関節鏡視下手術	内田 宗志	整形外科学

10件

160件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
骨折 32: 278-281 (2010年5月)	上腕骨遠位端関節内骨折における LCP Distal Humerus Plate の使用経験	山中 芳亮	整形外科
Osteoporosis International 21: 733-739 (2010年5月)	Shorter unipedal standing time and lower bone mineral density in women with distal radius fractures.	Sakai, A.	整形外科
整形・災害外科 53:845-850 (2010年6月)	吸収性プレートによる上肢の骨折治療	酒井 昭典	整形外科
医学と薬学 63:889-903 (2010年6月)	リセドロネート(アクトネル錠)17、5mg の骨粗鬆症患者に対する QOL 改善効果に関する検討 特定使用成績調査(中間集計・解析結果)	中村 利孝	整形外科
Journal of CLINICAL REHABILITATION 19: 671-677 (2010年7月)	骨関節 X 線像のみかた、手指(CM 関節を含む)	酒井 昭典	整形外科
日本手の外科学会雑誌 26:230-233 (2010年7月)	Colles 骨折に対する掌側ロックプレートを用いた早期運動療法の術後臨床成績不良症例の検討	善家 雄吉	整形外科
日本整形外科学会雑誌 84:440-445 (2010年7月)	肥満;生活習慣と腰痛	中村英一郎	整形外科
整形外科 61:1002-1005 (2010年8月)	骨折を伴わない非開放性の mallet thumb の1例	酒井 昭典	整形外科
整形・災害外科 53:1201-1205 (2010年9月)	活動的な高齢者の転位した大腿骨頸部骨折に対するセメントレス人工股関節全置換術	大西 英生	整形外科
BONE 47: 493-502 (2010年9月)	Effects of teripatide on bone mineral density and bone turnover markers in japanese subjects with osteoporosis at high risk of fracture in a 24-month clinical study: 12-month, randomized, placebo-controlled, double-blind and 12-month open-label phases.	Nakamura, T	整形外科

10件

170件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Orthopaedic Science 15:737-745 (2010年11月)	Nationwide one-decade survey of hip fractures in Japan.	Nakamura, T.	整形外科科学
BONE 47:1006-1012 (2010年12月)	Deficiency of vitamin A delays bone healing process in association with reduced BMP2 expression after drill-hole injury in mice.	Sakai, A.	整形外科科学
整形・災害外科 54(1):65-70 (2011年1月)	手の変形性関節症に対する COX-2 選択的阻害剤セレコキシブの有用性	酒井 昭典	整形外科科学
整形・災害外科 54(2):203-206 (2011年2月)	症例:両側尺骨骨幹部に発生した insufficiency fracture の1例	酒井 昭典	整形外科科学
Journal of Dermatological Science 58:1-7 (2010年4月)	Extrinsic and intrinsic types of atopic dermatitis	Tokura, Y.	皮膚科
日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌 4:47-50 (2010年4月)	ミゾリビン内服が有効であった慢性苔癬状皰癬疹	杉田 和成	皮膚科
Journal of european academy of dermatology and venereology 24:495-496 (2010年4月)	Drug eruption induced by IL-6 receptor inhibitor tocilizumab	Yoshiki, R	皮膚科
小児科 51:672-673 (2010年4月)	爪甲色素線条	中村 元信	皮膚科
小児科 51:536-541 (2010年4月)	皮疹の診かたとその記載法	戸倉 新樹	皮膚科
Cancer 116:1757-1766 (2010年4月)	Tumor cell expression of programmed cell death-1 ligand 1 is a prognostic factor for malignant melanoma.	Hino, R	皮膚科

10件
180件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
西日本皮膚科 72: 159-162 (2010年5月)	塩酸オロパタジン内服によるアトピー性皮膚炎患者の血中サブスタンスPとTh17細胞割合への影響	梶島利江子	皮膚科
Journal of Dermatological Science 58: 157-159 (2010年5月)	Evaluation of toxicity and Stat3 activation induced by hydrogen peroxide exposure to the skin in healthy individuals	Bitou, T	皮膚科
Skin Cance 25: 38-41 (2010年5月)	上腕に生じ、懸垂状外観を呈した巨大メルケル細胞癌	梶島利江子	皮膚科
Br J Dermatol 162: 1152-1154 (2010年5月)	Expression of snail1 in the fibrotic dermis of postmenopausal frontal fibrosing alopecia: possible involvement of an epithelial-mesenchymal transition and a review of the japanese patients.	Tokura, Y.	皮膚科
Am J Pathol. 176: 2385-2393 (2010年5月)	Flaky tail mouse denotes human atopic dermatitis in the steady state and by topical application with dermatophagoides pteronyssinus extract.	Kabashima, K.	皮膚科
Acta Derm Venereol. 90: 314-316 (2010年5月)	Epidermolysis bullosa acquisita associated with psoriasis.	Kabashima, R.	皮膚科
J Immunol 184: 5670-5677 (2010年5月)	The mandatory role of IL10-producing and OX40 ligand-expressing mature langerhans cells in local UVB-induced immunosuppression.	Yoshiki, R	皮膚科
皮膚の科学 9: 17-20 (2010年6月)	ロキシスロマイシンの皮膚自然免疫調整作用	小林 美和	皮膚科
J Am Acad Dermatol 63: 160-161 (2010年7月)	High responses of peripheral lymphocytes to mosquito salivary gland extracts in patients with wells syndrome.	Sugita, K	皮膚科
Exp Dermatol 19: 654-660 (2010年7月)	Ultraviolet light induces stat3 activation in human keratinocytes and fibroblasts through reactive oxygen species and DNA damage.	Bitou, T	皮膚科

10件

190件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pediatr Dermatol 27: 417-417 (2010年7月)	Multiple pilomatricomas in association with 21-hydroxylase deficiency	Nakamura, M	皮膚科
Eur J Dermatol 20 : 508-509 (2010年7月)	A novel missense mutation in tumour necrosis factor receptor superfamily 1A (TNFRSF1A) gene found in tumour necrosis factor receptor-associated periodic syndrome (TRAPS) with high serum interleukin (IL)-22.	Nakamura, M	皮膚科
J Cutan Pathol. 37: 808-811 (2010年7月)	Palmar pseudolymphoma associated with herpes simplex infection.	Kobayashi, M	皮膚科
J Dermatol. 37: 770-772 (2010年8月)	Complete remission of metastatic malignant melanoma after surgery in association with development of systemic vitiligo.	Bitou, T	皮膚科
Derma 169:9-14 (2010年8月)	特集 サイトカインを利用した治療・生物学的製剤 update 乾癬のサイトカイン異常 update	戸倉 新樹	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 120: 1841-1859 (2010年8月)	日本皮膚科学会円形脱毛症診療ガイドライン2010	中村 元信	皮膚科
西日本皮膚科 72: 385-389 (2010年8月)	月経に関連した外陰部皮膚症状に関するアトピー性皮膚炎患者へのアンケート調査	小林 美和	皮膚科
Dermato- Endocrinology 2: 17-18 (2010年8月)	Acute onset disseminated superficial porokeratosis associated with exacerbation of diabetes mellitus due to development of anti-insulin antibodies.	Nakamura, M	皮膚科
Eur J Dermatol. 20: 545-546 (2010年8月)	Angiolymphoid hyperplasia with eosinophilia occurring on the penis.	Oomori, S	皮膚科
Skin cancer 25: 141-144 (2010年8月)	全身に白斑を伴った転移性悪性黒色腫の寛解例	尾藤 利憲	皮膚科

10件
200件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Allergy Clin Immunol 126:408-410 (2010年8月)	Fluctuation of blood and skin plasmacytoid dendritic cells in drug-induced hypersensitivity syndrome.	Sugita, K	皮膚科
JEDCA(日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌) 4:192-195 (2010年8月)	職業性皮膚疾患 NAVI	織茂 弘志	皮膚科
Acta Derm Venereol. 90: 502-505 (2010年9月)	Ectopic extramammary Paget's disease: case report and literature review.	Bitou, T	皮膚科
Acta Derm Venereol. 90: 521-522 (2010年9月)	Valsartan-induced drug eruption followed by CD30+ pseudolymphomatous eruption.	Yoshiki, R	皮膚科
Acta Derm Venereol. 90: 525-526 (2010年9月)	CD8+ CD56+ mycosis fungoides with an indolent clinical behaviour case report and literature review.	Sugita, K	皮膚科
マルホ皮膚科セミナー 207: 9-13 (2010年10月)	薬剤アレルギーにおけるDLST	戸倉 新樹	皮膚科
産業医科大学雑誌 32: 317-328 (2010年10月)	Psoriasis and other Th17-mediated skin diseases.	Tokura, Y	皮膚科
Am J Pathol. 17:1881-1887 (2010年10月)	FTY720 regulates bone marrow egress of eosinophils and modulates late-phase skin reaction in mice.	Sugita, K	皮膚科
J Eur Acad Dermatol Venereol. 24: 1365-1366 (2010年11月)	Expression of Snail1 in the vimentin-expressing squamous cell carcinoma mimicking atypical fibroxanthoma: possible involvement of an epithelial-mesenchymal transition.	Nakamura, M	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 120: 2175-2180 (2010年11月)	2. 乾癬・アトピー性皮膚炎と免疫	戸倉 新樹	皮膚科

10件
210件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本小児皮膚科学会 雑誌 29 : 115-117 (2010 年 11 月)	両上肢対称に生じた線状強皮症の1例	島内 隆寿	皮膚科
Acta Derm Venereol. 90: 652-653 (2010 年 11 月)	Erosive pustular dermatosis of the scalp and leg associated with myasthenia gravis: a possible pathogenetic role for neutrophil-stimulating cytokines and chemokines.	Bitou, T.	皮膚科
J Invest Dermatol. 130: 2683-2686 (2010 年 11 月)	Cholinergic urticaria: studies on the muscarinic cholinergic receptor M3 in anhidrotic and hypohidrotic skin.	Nakamura, M	皮膚科
Eur J Dermatol. 20: 813-814 (2010 年 12 月)	Chondrodermatitis of the auricle in patients with atopic dermatitis.	Nakamura, M	皮膚科
西日本皮膚科 72: 567-568 (2010 年 12 月)	Birt-Hogg-Dube 症候群	田尻 真貴子	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 120: 2890-2891 (2010 年 12 月)	爪甲の疾患の見方と治療	中村 元信	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 120: 2621-2622 (2010 年 12 月)	真菌と自然免疫	小林 美和	皮膚科
救急医学 34: 435-438 (2010 年 4 月)	外用剤と外用療法	安田 浩	形成外科
PEPARS 41: 29-34 (2010 年 5 月)	外用剤による褥瘡の保存的治療	安田 浩	形成外科
形成外科 53: 519-526 (2010 年 5 月)	初期局所療法	安田 浩	形成外科

10件
220件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
形成外科 53:537-543 (2010年5月)	鼻部悪性腫瘍切除後の再建における皮弁形成術	安田 浩	形成外科
形成外科 53: S7-S8 (2010年10月)	熱傷局所療法	安田 浩	形成外科
形成外科 53: S8-S9 (2010年10月)	化学損傷	安田 浩	形成外科
形成外科 53:1289-1296 (2010年12月)	下腿潰瘍の成因と診断	Yasuda, H	形成外科
重症集中ケア 9 :55-60 (2010年12月)	熱傷創の治療	Yasuda, H	形成外科
西日本泌尿器科 72:224-236 (2010年5月)	男子非淋菌性尿道炎に対する gatifloxacin の臨床研究	濱砂 良一	泌尿器科
International Journal of STD & AIDS 21:362-366 (2010年5月)	Population-based study of asymptomatic infection with chlamydia trachomatis among female and male students	濱砂 良一	泌尿器科
Medical Practice 27: 341-347 (2010年5月)	腎・泌尿器疾患 尿路感染症	庄 武彦	泌尿器科
Peptides 31(6):1124-1130 (2010年6月)	Centrally administered relaxin-3 induces fos expression in the osmosensitive areas in Rat brain and facilitates water intake	大坪 広樹	泌尿器科
西日本泌尿器科 72:353-356 (2010年7月)	超高齢者の泌尿器がん治療追加発言 高齢者の浸潤性膀胱癌に対する少量CDDP併用放射線治療の検討	松本 博臣	泌尿器科

10件
230件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
薬事 52 : 1361-1365 (2010年8月)	知っておきたい耐性菌の特徴 临床上重要な耐性菌 VRE:バンコマイシン耐性腸球菌	松本 哲朗	泌尿器科
Urology View 8: 77-83 (2010年12月)	感染結石のマネジメント	松本 正弘	泌尿器科
安全と健康 61: 17-22 (2010年10月)	解説1 眼精疲労の防止	岩崎 常人	眼科学
あたらしい眼科 27: 1731-1735 (2010年12月)	線維柱帯切除術後の脈絡膜剥離に関する臨床経過の検討	新田 憲和	眼科学
Jpn J Ophthalmol 54: 622-637 (2010年12月)	A case of fukuyama congenital muscular dystrophy associated with negative electroretinograms.	Kondo, H.	眼科学
Archives of Ophthalmology 128 : 1539-1545 (2010年12月)	Angiographic changes in iris and iridocornealangle neovascularization after intravitreal bevacizumab injection	Ishibashi, S.	眼科学
臨床眼科 65(2) : 225-229 (2011年2月)	整復手術が必要であった眼内レンズ位置異常症例の検討	村田勝一郎	眼科学
IOVS 52(2) : 1055-1063 (2011年2月)	Quercetin induces the expression of peroxiredoxins 3 and 5 via the Nrf/2 NRF1 transcription pathway	宮本 直哉	眼科学
IOVS 52(3) : 1226-1234 (2011年3月)	Transcriptional regulation of activating transcription factor 4 under oxidative stress in retinal pigment epithelial ARPE-19/HPV-16 cells	宮本 直哉	眼科学
耳喉頭頸 82: 295-298 (2010年4月)	超高齢者に発生した舌根部腺様嚢胞癌の1例	因幡 剛	耳鼻咽喉科学

10件
240件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
耳鼻臨床 103: 311-315 (2010年4月)	鼻出血を契機に発見された鼻腔血管平滑筋腫例	門川 洋平	耳鼻咽喉科学
耳鼻臨床 103:323-327 (2010年4月)	好酸球性副鼻腔炎術後に発症したChurg-Stauss症候群	因幡 剛	耳鼻咽喉科学
耳鼻臨床 103: 349-356 (2010年4月)	耳下腺癌 48例の臨床統計	永谷 群司	耳鼻咽喉科学
耳鼻臨床 103:479-483 (2010年5月)	側頭部より副咽頭間隙まで刺入した箸異物例	因幡 剛	耳鼻咽喉科学
耳鼻臨床 103:575-579 (2010年6月)	両側耳下腺腫脹を伴った甲状舌管癌例	門川 洋平	耳鼻咽喉科学
耳鼻臨床 103:629-635 (2010年7月)	鼻中隔原発軟骨肉腫例	大久保淳一	耳鼻咽喉科学
Neurol med-chir 50:693-697 (2010年8月)	Langerhans cell histiocytosis of the petrous bone with sudden sensorineural hearing loss	Suzuki, H	耳鼻咽喉科学
J Laryngol Otol 124:1007-1009 (2010年9月)	Mitochondrial neurogastrointestinal encephalomyopathy associated with progressive hearing loss	Hiraki, N	耳鼻咽喉科学
Otol Jpn 20(5):711-716 (2010年12月)	突発性難聴における初診時歪成分耳音響放射出力と聴力予後	森 貴稔	耳鼻咽喉科学
Int Pediatr Otorhinolaryngol 75:664-669 (2011年3月)	Nasopharyngeal streptococcus pneumoniae carriage in japanese children attending day-care centers	Hashida,K	耳鼻咽喉科学

10件
250件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
耳鼻臨床 104(3):161-170 (2011年3月)	頭頸部癌におけるシスプラチン耐性の分子機序	若杉 哲朗	耳鼻咽喉科学
AJNR 31(4):620-625 (2010年4月)	Effect of tube voltage on image quality in 64-section multidetector 3D CT angiography: evaluation with a vascular phantom with superimposed bone skull structures	Murakami,Y	放射線科学
Academic 17(7):871-876 (2010年5月)	Superficial siderosis associated with a chronic subdural hematoma T2-weighted MR imaging at 3T	Kakeda,S	放射線科学
AJNR 31(5):827-829 (2010年5月)	Reduction of the radiation dose for multidetector row CT angiography of cerebral aneurysms using an edge-preserving adaptive filter: a vascular phantom study	Kakeda,S	放射線科学
Nippon Hoshasen Gijutsu Gakkai Zasshi 66: 1169-1177 (2010年9月)	A computerized method for detection of acute cerebral infarction on CT images.	掛田 伸吾	放射線科学
Jpn J Radiol 28: 649-655 (2010年9月)	Efficacy of computer-aided diagnosis in lung cancer screening with low-dose spiral computed tomography: receiver operating characteristic analysis of radiologists' performance.	青木 隆敏	放射線科学
Int J Hyperthermia 27(1):20-26 (2011年2月)	Deep regional hyperthermia for the whole thoracic region using 8 MHz radiofrequency-capacitive heating device:Relationship between the radiofrequency-output power and the intra-oesophageal temperature and predictive factors for a good heating in 59 patients	Ooguri,T	放射線科学
Lung Cancer 71(3):338-343 (2011年3月)	Definitive radiotherapy plus regional hyperthermia with or without chemotherapy for superior sulcus tumors:a 20-year,single center experience	Bun,syoudai	放射線科学
Virchows Arch 456:387-393 (2010年4月)	Expression of mitochondrial transcriptin factor A in endmetorial carcinomas: clinicopathologic correlations and prognostic significance.	Toki. N	産婦人科学
日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 26: 264-267 (2010年7月)	手術経験が全腹腔鏡下卵巣嚢胞性奇形腫切除術の手術成績に与える影響について	蜂須賀 徹	産婦人科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Anticancer Res 30: 3119-3123 (2010年8月)	Apoptosis as possible candidate mechanism for removal of tamoxifen-related endometrial cells with KRAS mutations.	Hachisuga, T	産婦人科学
J Obstet Gynaecol Res 36:907-911 (2010年8月)	Malignant mixed müllerian tumor with malignant neuroectodermal components (teratoid carcinosarcoma) of the ovary: Report of a case with clinicopathologic findings.	Matsuura, Y	産婦人科学
Int J Clin Oncol 15: 531-542 (2010年12月)	Evidence-based guideline for treatment of uterine body neoplasm in Japan: Japan society of gynecologic oncology (JSGO) 2009 edition.	Hachisuga, T.	産婦人科学
J Anesth 24(2): 319-320 (2010年4月)	Use of the Coopdech bronchial blocker™ as a tracheal tube introducer in a patient with difficult laryngoscopy	Ozaki, M.	麻酔科学
Shock 34(1): 83-89 (2010年7月)	Role of natural killer dendritic cells in host resistance against Pseudomonas aeruginosa infection after thermal injury in mice	Kawasaki, T.	麻酔科学
Cytokine 51(2): 166-172 (2010年8月)	Salutary effects of 17β-estradiol on Peyer's patch T cell functions following trauma-hemorrhage	Kawasaki, T.,	麻酔科学
麻酔 59(10): 1301-1304 (2010年10月)	スワイヤ・ジェームズ症候群を対側肺に合併した肺切除術の麻酔管理	川崎 貴士	麻酔科学
生体の科学 61(5): 410-411 (2010年10月)	グリシントランスポーター2(GlyT2)阻害薬の抗侵害作用	原 幸治	麻酔科学
麻酔 59(11): 1432-1434 (2010年11月)	先天性門脈体循環シャントを合併した心室中隔欠損閉鎖術の麻酔経験	山本 克己	麻酔科学
Surgery 149(1): 106-113 (2011年1月)	Lidocaine suppresses mouse Peyer's patch T cell functions and induces bacterial translocation	Kawasaki, T.	麻酔科学

10件
270件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日職災医誌 58:184-189 (2010年4月)	当院における転倒・転落予防の取り組み: 転倒予防ワーキンググループによる介入の 効果	佐伯 覚	リハビリテーション 医学
総合リハ 38: 381-388 (2010年4月)	ポリオ罹患者における筋力の経年的変化	佐伯 覚	リハビリテーション 医学
Naunyn-Schmied Arch Pharmacol 382:235-243 (2010年7月)	Upregulation of norepinephrine transporter function by prolonged exposure to nicotine in cultured bovine adrenal medullary cells	Itou, H	リハビリテーション 医学
バイオメディカル・ファ ジィ・システム学会誌 12:1-10 (2010年7月)	NIRSを使用した音声波の振幅包絡の変更	牧野健一郎	リハビリテーション 医学
Jpn J Rehabil Med 47:728-734 (2010年10月)	高次脳機能障害者に対する社会復帰準備 のための小集団訓練「リハビリテーション学 級」の試み	岡崎 哲也	リハビリテーション 医学
Electronics and Communications in Japan 93(9):45-54 (2010年10月)	Methods of collection of biological Information for fatigue evaluation during Visual Display Terminals (VDTs) Operation	Wada,F	リハビリテーション 医学
The Open Dentistry Journal 4:29-32 (2010年6月)	A case of chronic infectious arthritis of the temporomandibular joint associated with osteomyelitis without malocclusion.	Hirashima, S	歯科口腔外科
日本口腔腫瘍学会誌 22:82-88 (2010年9月)	口腔癌における化学・放射線療法後の再 発・二次再建に関する外科療法の検討	大矢 亮一	歯科口腔外科
日本口腔診断学会雑 誌 23:295-300 (2010年10月)	放射線化学療法が奏効した上顎歯肉転移 性肺腺癌の1例	秋森 俊行	歯科口腔外科
臨床麻酔 34:1281-1284 (2010年8月)	冠動脈バイパス術当日に多量の胸水を認 め、コレステロール結晶塞栓症の発症が疑 われた 1例	植木 雅也	救急・集中治療 部

10件
280件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床麻酔 34:1729-1732 (2010年11月)	経尿道的尿管結石破碎術直後に Septic Shock になった1例	植木 雅也	救急・集中治療部
Eur J Haematol 84(5):391-397 (2010年5月)	THE-COP regimen for the treatment of peripheral T-cell lymphoma and adult T-cell leukemia/lymphoma:a multicenter phase II study	Tsukada,J	化学療法センター
Cancer 117(12):2735-2746 (2010年12月)	Apoptosis induction through proteasome inhibitory activity of cucurbitacin D in human T-Cell leukemia	Tsukada,J	化学療法センター
医工学治療 22:130-130 (2010年7月)	断裂に加え不完全拡張であったステントに対してコンクエストを用いて修復と再拡張が可能であった1症例	梶島 成利	腎センター
医工学治療 22:156-156 (2010年7月)	透析用穿刺針に違いによる実血液流量と透析効率の変化	梶島 成利	腎センター
Pharma Medica 29(3):47-50 (2011年3月)	腹膜透析療法と被嚢性腹膜硬化症	田村 雅仁	腎センター
月刊 臨床と研究 87:34-38 (2010年5月)	各種臓器の超音波検査、関節	大田 俊行	臨床検査・輸血部
国立医療学会誌 医療 64:529-531 (2010年8月)	臨床医が求める臨床検査技師とは、-輸血専門医の立場から-	中田 浩一	臨床検査・輸血部
Virchows Archiv 454:577-583 (2010年5月)	TLE1 expression in marignant mesotherioma	Matsuyama, A	病理部
J UOEH 1;32(2):213-219 (2010年6月)	A Case of testicular carcinoid	Ymamada,S	病理部

10件
290件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J UOEH 1;32(2):195-203 (2010年6月)	Extracellular matrix and atherosclerosis	Sasaguri,S	病理部
Cancer Sci 101(6):1367-1373 (2010年6月)	Y-box binding protein-1 is a novel molecular target for tumor vessels	Sasaguri,S	病理部
Am J Ptthol 177(2):713-723 (2010年8月)	Metabolism via histamine receptors model for nonalcoholic steatohepatitis in mice	Sasaguri,Y	病理部
Cardiovasc Res 87(4):675-682 (2010年9月)	Severe dyslipidaemia atherosclerosis and sudden cardiac death in mice lacking all no synthases fed a High-fat diet	Sasaguri,Y	病理部
J UOEH 1;32(3):273-279 (2010年9月)	An autopsy case of microscopic polyangiitis associated with bacterial endocarditis	Sasaguri,Y	病理部
Antioxid Redox Signal 13(10):1477-1490 (2010年11月)	Overexpression of peroxiredoxin 4 oxidative Stress and cytokines in transgenic mice	Sasaguri,Y	病理部
Circ J 74(12):2681-2692 (2010年11月)	Spontaneous development of left ventricular hypertrophy and diastolic dysfunction in mice lacking all nitric oxide synthases	Sasaguri,Y	病理部
Journal Pharmacol Ogicalsci 114(4):379-389 (2010年11月)	Complete disruption of all nitric oxide synthase genes causes markedly accelerated renal lesion formation following unilateral ureteral obstruction In mice in vivo	Sasaguri,Y	病理部
PLos One 23;5(12):15330-15330 (2010年12月)	Circadian disruption accelerates tumor growth and angiostromagenesis through a wnh1 signaling pathway	Sasaguri,Y	病理部
Invest Ophthalmol Vis Sci 52(2):1055-1063 (2011年2月)	Quercetin induces the expression of peroxiredoxin 3 and 5 via the Nrf2/NRF1 transcription pathway	Sasaguri,Y	病理部

10件

300件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pathol int 61(2):93-98 (2011年2月)	Total anomalous pulmonary vein drainage : report of an autopsy case associated with atresia of the common pulmonary vein and left superior pulmonary vein	Sasaguri,Y	病理部
Intern Med 50(4):315-319 (2011年2月)	A case of adult autoimmune hepatitis with histological features of giant cell hepatitis	Sasaguri,Y	病理部
Invest Ophthalmol Vis 52839:1226-1234 (2011年3月)	Transcriptional regulation of activating transcription factor 4 under oxidative stress in Retinal Pigment epithelial ARPE-19/HPV-16 cells	Sasaguri,Y	病理部
Cancer Sci 102(5):1007-1013 (2011年3月)	Monocarboxylate transporters 1 and 4 are involved in the invasion activity of human lung cancer cells	Sasaguri,Y	病理部
J Immunol 186(6):3745-3752 (2011年3月)	Dopamine induces IL-6-dependent IL-17 production via D1-like receptor on CD4 naïve T cells and D1-like receptor antagonist SCH-23390 inhibits cartilage destruction in a human rheumatoid arthritis/SCID mouse chimera model	Sasaguri,Y	病理部
J Occup Health 53(1):1-9 (2011年1月)	Development of an evidence-based guideline for supervisor training in promoting mental health:literature review	堤 明純	産業医実務研修 センター

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病 院 長 松本 哲朗
管理担当者氏名	医療情報部長 林田 賢史、放射線部長 興梠 征典 看護部長 小竹 友子、薬剤部長 高橋 浩二郎 病院管理課長 辻塚 勲、医事課長 橋爪 信介

	保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴室 薬剤部 放射線部 看護部 各診療科外来 病院管理課	月別にて電子カルテ及びそれぞれの部署にてファイル形式において、管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	毎年度毎に電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。
	高度の医療の提供の実績	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	
	高度の医療の研修の実績	
	閲覧実績	
	紹介患者に対する医療提供の実績	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号及び第九の二十三第一項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	毎年度毎に電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部及び病院業務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部及び病院業務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部及び病院業務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部及び病院業務課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院業務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院業務課
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院業務課
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、薬剤部及び病院業務課
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院業務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院業務課
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院業務課		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部及び病院業務課		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長 西岡 隼人
閲覧担当者氏名	病院管理課長 辻塚 勲、病院管理課長代理 杉本 裕昭
閲覧の求めに応じる場所	診療情報等閲覧室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	79.9%	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		14,765人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,398人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,197人
	D：初診の患者の数		22,834人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 安全管理に関する基本的考え方 安全管理のための委員会に関する基本的事項等	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 28 回
(医療安全対策委員会12回、医療事故防止委員会16回)	
・ 活動の主な内容： 1) 医療安全対策の検討に関すること。 2) 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること。 3) 医療安全対策並びに医療事故防止のための啓発、教育及び広報に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 44 回
・ 研修の主な内容： 1) 医療安全対策に関すること。 2) 医療事故防止に関すること。 3) 医薬品安全使用に関すること。 4) 医療機器安全使用に関すること。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容：	
＜平成22年4月以降＞	
1) 医療機器安全管理ワーキング設置 2) 医薬品安全管理ワーキング設置 3) CV ポートの取り扱いのマニュアル作成 4) 医療安全対策マニュアルの整備 5) ポケット医療安全マニュアル(第5版)の発行 6) 処方オーダー時のクリックミス防止：薬効、小児、成人など表示する 7) アレルギー画面の検討要望中 8) 全身麻酔による手術室退出時の携帯用パルスオキシメーターを装着する 9) 中止薬剤の運用 10) ビクトーザ皮下注(ヒトGLP-1アナログ製剤)の運用 11) 弾性ストッキングの正しい使用方法の啓発 12) 医療事故に関与した職員(部署)への支援についてマニュアル作成 13) 禁忌薬剤を誤投与した場合は、遅発性の症状の出現や増悪することがあるので、経時的に観察を行うことをマニュアルに追加した。 14) 持参薬の取り扱いについてマニュアルの一部修正 15) 指差し呼称の啓発のステッカー作成、貼付 16) 産業医科大学病院医療安全対策規定の一部改正 リスクマネージャーの感染業務の追加とセーフティマネージャーに名称変更 17) インスリン希釈法の見直しと修正 18) 転倒転落アセスメントスコアの見直し	

<p>19) 医療安全対策マニュアルの一部改正 ・インシデント・アクシデント患者影響度分類 ・療養上の世話—転倒・転落防止 ・自殺</p> <p>20) レーザーを使用する医療機器については実施前に、試し打ち(空打ち)を行う</p> <p>21) 危険予知用具手順書の作成</p> <p>22) ポケット医療安全マニュアル第6版の発行</p> <p>23) 医療安全対策マニュアルの一部改訂</p>	
<p>⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況</p>	<p>④ (1名)・無</p>
<p>⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況</p>	<p>④ (3名)・無</p>
<p>⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況</p>	<p>④・無</p>
<p>・ 所属職員：</p> <p>医療安全管理部 専任(1)名 兼任(5)名 (専任：医療安全管理者(1名)、兼任：部長(1名)、部員(1名)、 医薬品安全管理責任者(1名)、医療機器安全管理者(1名)、看護師(1名))</p> <p>感染制御部 専任(3)名 兼任(7)名 (専任：感染制御担当医師(1名) 病院感染対策者(1名) 感染制御担当職員(1名) 兼任：部長(1名) 感染制御担当医師(1名) 感染制御担当職員(4名) 部員(1名))</p> <p>※医療安全対策にかかる事務部門：病院事務部病院業務課(4名)</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 委員会で用いられる資料の作成に関する事。 2) 医療事故及び病院感染に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関する事。 3) 患者や家族への説明など医療事故及び病院感染発生時の対応状況についての確認及び指導に関する事。 4) 医療事故及び病院感染の原因究明が適切に実施されていることの確認及び指導に関する事。 5) 医薬品に係る安全管理及び使用に関する事。 6) 医療機器に係る保守点検及び安全使用に関する事。 7) 医療安全対策に係る連絡調整に関する事。 8) その他医療安全対策の推進に関する事。 	
<p>⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>	<p>④・無</p>

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	㊟・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：本院では、医療にかかわる安全管理の指針と一体的に策定している。<ul style="list-style-type: none">① 医療安全対策・病院感染防止に関する基本的考え方② 医療安全対策・病院感染防止の為の委員会に関する基本的事項等③ 標準予防策＋感染経路別予防策等感染防止対策各論	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 29回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：医療安全対策委員会12回、病院感染防止委員会17回<ul style="list-style-type: none">① 医療安全対策の検討及び研究② 病院感染の分析及び再発防止策の検討に関する事③ 病院感染防止のための啓発、教育及び広報に関する事	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">① 手指衛生を見直す。② リスクマネジメント③ 多剤耐性菌対策④ 落針対策⑤ VRE感染対策	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 病院における発生状況の報告等の整備 (㊟・無)<ul style="list-style-type: none">① 感染制御部ニュースの発行にて広報② セーフティーマネージャー連絡協議会を通じて広報③ 委員会を通じて報告・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">① 職員へ流行性ウイルス疾患の抗体価測定及び抗体価が不十分な場合のワクチン勧奨② ベッドパンウォッシャーの更新③ 結核・麻疹・水痘・インフルエンザ等感染症発生時の感染対策と2次発症者対策の実施④ VRE・MDRP等多剤耐性菌発生時の隔離予防策の実施⑤ 空調カビ対策・シャボンホルダーのセンサー式へ更新等療養環境整備⑥ 感染対策組織である感染制御部の人員の拡充	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 正しい薬剤投与2) ハイリスク薬3) 麻薬4) 持参薬を院内処方に切替えた際のヒヤリハット事例、内服処方箋の標準化について5) アナタの常識はワタシの常識ではない —情報伝達エラーを防止する—6) 安全な与薬	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (☑・無)・ 業務の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 医薬品の採用2) 医薬品の購入管理3) 医薬品の管理4) 与薬指示・調剤5) 患者に対する与薬や服薬指導6) 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い (収集、提供)7) 他施設との連携	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 薬剤師による処方せん・注射せんの疑義照会2) 薬剤師による病棟及び外来の院内ラウンドの実施3) インスリン・スライディング・スケールの院内標準化4) 危険薬の定義と危険薬のリスト作成5) 医薬品安全使用のための業務手順チェックリストの作成6) 持参薬の鑑定と初回面談7) 薬歴ファイルに基づく化学療法処方監査の徹底8) 入院・外来化学療法患者に対する注射用抗がん剤の調製と服薬指導	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 60 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 輸液ポンプとシリンジポンプ2) 人工呼吸器3) 酸素療法4) 除細動5) 補助循環装置6) 心電図7) 閉鎖式保育器8) 血液浄化装置9) 心電図モニタ	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (○・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 人工心肺装置及び補助循環装置2) 人工呼吸器3) 血液浄化装置4) 除細動装置5) 閉鎖式保育器6) 診療用高エネルギー放射線発生装置7) 診療用放射線照射装置	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 医療機器安全管理ワーキングの開催2) 医療機器に関する情報の収集3) 収集した医療事故等の情報を医療安全情報により院内に周知	